

えほんだより
みるみる No. 5

令和5年9月20日(水)
平田村立ひらたこども園

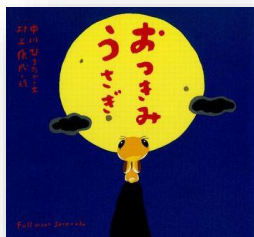
朝晩がひんやりとする季節になりました。運動会を間近に控え、子ども達は毎日の練習に楽しみながら取り組んでいるところです。きっと毎日疲れてぐっすり眠れているのではないでしょう。いよいよ「食欲の秋」、「スポーツの秋」、そして「読書の秋」の到来です。日中はまだまだ暑さが残る予報が多く聞かれますが、運動会の練習で疲れている子ども達に、「絵本」という魔法で心身ともにリフレッシュするもまた、明日への活力になることまちがいなし！ですね。



もうすぐ 十五夜



そろそろお月見の季節ですね。日本の秋の代表的な風物詩といえば十五夜のお月見です。十五夜を「中秋の名月」ともいいますね。「中秋の名月」とは旧暦8月15日の月のことです。一年のうちでいちばん空気の澄んだ夜空の満月を見て、感動した経験が一度はあるかと思います。平安時代には、貴族が風流を楽しむという意味が強かったそうですが、江戸時代になって一般庶民の間でも名月を見ながら収穫した芋を食べる風習がうまれました。それが徐々に「収穫の季節に豊作を感謝する」という意味あいになっていきました。ちなみにお供え物に「すすき」を供えるのは、稲穂に見立てているそうです。神様への収穫感謝の気持ちが、お月見の由来だったので、今年のお月見は9月29日(金)です！



十五夜にぴったり絵本

「おつきみうさぎ」

作：中川 ひろたか 絵：村上 康成 出版社：童心社

今日はお月見。お友達がみんなで野原にすすきを取りにやってくると、不思議なウサギに遭遇。この不思議なウサギを連れて帰ることにしました。このウサギ、ニンジンをあけても全然食べようとしません。実はこのウサギは月に住むウサギ。半月の日、月から落ちてしまったようです。ウサギは無事に月へ帰ることはできたのでしょうか。絵本の中では園長先生がお月見団子作りを始めます。お家でもお月見団子作りをたくさんやってみませんか！

木育ってご存じですか？



子育てには、「〇〇育」という言葉をよく耳にしますよね。例えば、「食育」「服育」「水育」「花育」「色育」などがあるようですが、これらは造語として世に広まっています。いずれも、そのことに関する活動や遊びをとおして興味をもったり関心を深めていったりする中で、気づきや楽しさを味わい、生活の中で活かし、成長と共に生きる力を培っていくことを目的とした活動です。

その中に「木育」という言葉があります。読んで字のごとく「木」を活かしたおもちゃで遊ぶなどしながら木に触れることで、木を利用して創造し、森づくりに貢献できる人材を多く育むことを推進する活動です。

先日の園だよりでもお伝えしましたが、去る8月23日、石川町(旧中谷第二小学校校舎)の「ひとくらす」様が来園し、木育絵本「いちばんおいしい？」を寄贈くださいました。この絵本のストーリーは、自分の好きなものを仲間と言い合いながらも、自分のものが一番だ！と主張し合いますが、「みんな違ってみんないい」ということに気づき、お互いを認め合っていく、というお話です。今の世の中にちょっと欠けているような、でもとっても必要な気持ちを木のぬくもりと共に表現された絵本です。貸し出しはできませんが、ぜひえほんのもりで、手に取ってご覧ください。



初めての木製の絵本に興味津々のお友達。見て触れて質感を味わって、木のぬくもりを感じたことと思います。この「木育」活動は、林野庁でも推奨しています。繰り返し使っていくほど味わい深い質感をもたらす木製玩具は、積み木や汽車などをよく見かけますが、こういった「絵本」としての活用も五感を刺激し、すばらしい玩具になりますよね！



こんな時
どうする？



- Q 最近、こども園から借りてくる絵本のお話が長いものが多く、1冊を読み終えるまでにかなり時間がかかります…。こどもも飽きちゃうし…。どうしたらいいですか？
- A 年長さんくらいになると、ストーリーものが好きだったりじっくりと考えることが楽しくなってきたりする分、お話の長いものを選ぶのは成長とも言えます。ただ、時間の問題や兄弟一緒に読み聞かせだったりするとそうとも言っては行かない…。ならば、一気に読み聞かせするのではなく、わざと途中で読むのを終わらせてみてはいかかでしょうか。子ども達も「続きはどうなるの?」「もっと聞きたい!」の気持ちが湧いてきて、次の読み聞かせをきっと楽しみに待ってくれることと思います！